

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



|      |           |     |       |                       |           |
|------|-----------|-----|-------|-----------------------|-----------|
| ボール名 | キラー・マシンII | 投球者 | 徳江 和則 | センター                  | 平和島スターボウル |
| RG   | 2.470     | △RG | 0.046 | ●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール |           |

**テストボール：キラー・マシン2**

フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 番

PAPからピンとの距離  インチ

4 インチ

研磨剤

**比較対照ボール：キラー・マシン**

フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 番

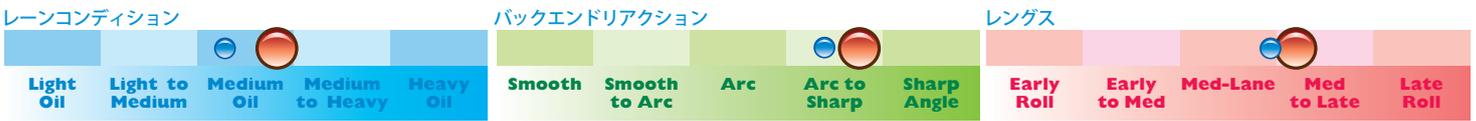
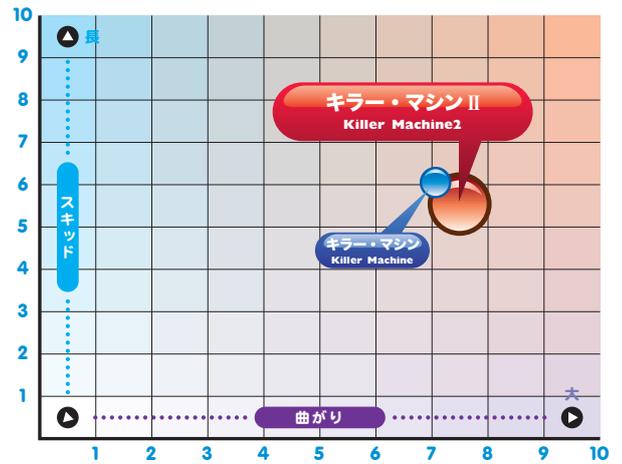
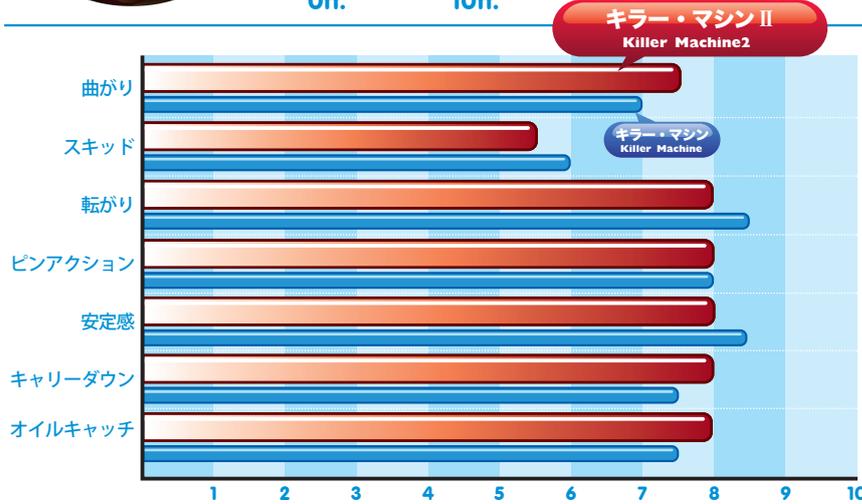
PAPからピンとの距離  インチ

4 インチ

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



### ボールの評価

ダイノタン社でも軸の製品となっているKillerシリーズ。前回のKiller Machineは粘り強いキャッチと鋭いバックエンドリアクションで多くの人に愛されました。今回お届けするKiller MachineIIは進化を遂げるカバーストック事情で、現在のテクノロジーでKillerシリーズを名乗るに相応しい、恥じない製品を作り上げること。今回のKiller MachineIIはそんな拘りから生まれました。今回採用したNEW Killer Reactive Plusカバーストックは、Killer MachineのNEW Killer Reactiveとは全く異なったカバー素材から構成されており、オイル上とドライゾーンでの摩擦係数は数十%以上高められています。コア形状は前回と同様のNEW Killer Coreの比重変更を採用していますが、カバーストックの素材の進化で、これ程パフォーマンスの差が出るものなのかを必ず感じていただけます。Killer Machine発売当時、あれほど極上と思われたカバー素材は1年足らずで当然あり得るだろうと思われるごく標準の素材となり、リアクションをこれだけ変化させられるカバーストックの潜在能力に驚かされます。生命線である走りの中にも以前とは比べ物にならないぐらいの安定感と、バックエンドモーションはとてつもなくコア形状が同じものとは思えないほどシャープさを魅せます。それと同時に私たちが感じる性能の領域も徐々に引き上げられ、中途半端な性能だと普通な性能と感じてしまうほど、満足度も高くなっています。その中でテストで合格点が出せるほどの領域に収まっていることは妥協とは無縁の一步突出した性能であり、私たち開発スタッフが追い続ける性能をこのKiller MachineIIで発揮できているという自負もあります。鋭い角度で切れ込むボールの性能を是非その手でお試ください。

### 特記事項

今までになかったレッド/オレンジ/イエローの綺麗な配色。アグレッシブにラインを攻めて、映えるボールです。